

## 中四国大会結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

5/25～27 に岡山県において、中四国大会が開催されました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

(男子)

予選 1 回戦 vs 川崎医療福祉大学

○2-1 (25-13、20-25、25-18)

決勝 T2 回戦 vs 愛媛大学

○3-0 (25-12、25-22、26-24)

準決勝 vs 福山平成大学

●0-3 (15-25、27-29、21-25)

優 勝 東亜大学

準優勝 福山平成大学

第 3 位 高知工科大学

第 3 位 広島大学

(女子)

予選 1 回戦 vs 徳島文理大学

●0-2 (17-25、19-25)

予選 2 回戦 vs 松山大学

●0-2 (21-25、21-25)

予選敗退

優 勝 環太平洋大学

準優勝 広島国際大学

第 3 位 至誠館大学

第 3 位 中国学園大学

(広大バレー部 X (Twitter))

<https://twitter.com/hirodaiVOLLEY>

女子はエースの岩永をはじめ 2 年生 3 人が体調不良で帯同できず、春リーグではリベロをしていた光本 (1 年・岡山城東高校) をレフトに配置し、対角に西岡 (1 年・兵庫・姫路高校)、ライトに大石 (1 年・宮崎・延岡高校)、リベロはなしで臨みました。光本は身長 156cm ながら、相手をよく見たスパイクで緩急も駆使し、スパイクフォローが手薄な状態でも最多得点を上げる活躍を見せてくれました。リベロポジションの時は非常に窮屈そうで、本来持っている力を発揮できていませんでしたが、レフトポジションとして動く範囲が広がったことで、特にレシーブの動きが軽くなったことがとても印象的でした。チームとしても最初は半信半疑で光本にトスを上げていましたが、2 試合目の最後には二段トスを任されるほど、チームの信頼を得ることが出来ていました。ほとんど練習していない状態でもこれだけ出来たことは、光本個人としてもチームとしても自信にして、チームの形として確立できるような練習を重ねて欲しいと思います。

大石は公式戦では初のフロント & フル出場となりましたが、攻守で西岡に負けない存在感を発揮してくれました。スパイクの助走については、開き方から踏み込みまで速さと力強さがまだまだですが、トスが非常に上手なので、リベロやセッターとしての可能性も感じられる内容でした。一方、6 ローテ出場したセンターの東 (3 年・愛媛・宇和島東高校) は、後衛でのミスは仕方ないものの、フロントでのボールの処理に依然課題が目立ちます。上手なプレーヤーから学ぶためには、まずは自分の体がどうなっているのかを理解しないといけません。練習のアップで行うようなネットプレーは、ネットプレーだと分かって処理をしているので、そこで出来ても様々な選択肢があるラリー中で出来るとは限りません。これは男子にも言えますが、この処理が結果に影響している状況ですので、ラリー中の精度を高められるような工夫をしていかなければなりません。

男子は、福山平成大学と点差だけ見ると春リーグと大差ありませんが、試合内容は非常に良くなったと思います。セッターの丹羽 (2 年・広島・盈進高校) は、春リーグでは不安そうにセンター線を使っていましたが、今大会は表情がとても明るくなり、課題克服に向けて意識的に取り組んでいることが伝わってきました。勝負所でもセンターを使う場面がありましたが、もうワンテンポ早いタイミングで使えると、今回ブロックに捕まったところはコンビで切れると感じました。最終日は湿気が多い状況でしたが、他チームの上手なセッターにも負けないトスが上がっており、ボールを上にあげれば何とかしてくれる信頼がチームに生まれつつあります。その信頼が先に書いた 1 本目の精度につながり、3 本目のスパイカーの踏み込みにもつながりますので、持ち前の機動力を存分に生かしてコート内を駆け回っ

て欲しいと思います。

今大会も保坂（4年・広島・修道高校）の粘り強いプレーと、デュースの場面でも後ろからの二段トスを打って決めて見せた山下（3年・広島・安古市高校）の熱いプレーが、見る人たちの心をワクワクさせてくれました。セットを落としても最後まで集中力を切らすことなく、ビッグプレーもいつ生まれるか分からないので、会場にいる人たちからすると目が離せない試合になっています。ただ、セットを取り切る、勝ち切るためには、繰り返しますが、チームとして細かいプレーの精度を高めなければいけません。サーブで崩してもダイレクトの反応が遅れ、相手センターがなくなった状況でも相手エースにブロッカー1枚になってしまったところが、デュースのセットであと1点及ばなかった直接的な原因だと感じました。センターブロッカーの判断は、目に見えるプレーではないので課題として取り上げられにくいものですが、見ていて抑えられる攻撃がまだまだありますので、チームの課題として取り組んで欲しいと思います。

今週は、6/2に国体広島県予選への出場を予定しています。

引き続きよろしくお願いたします。